

2021年度実績と2022年度計画

■2021年度(2021年6月～2022年5月)実績

2021年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け続けた1年でした。年度の初めこそ前年度後半以降の需要回復に支えられ堅調に推移したものの、夏以降は半導体や自動車部品の供給不足が顕在化し、自動車生産は大きく減速、その後は順次解消し高いレベルの挽回生産となるとの情報・期待もありましたが、中国・上海のロックダウンの影響も重なって、年度末まで低調のまま推移し、わが社の生産・販売も同様の状況となりました。一方、原材料の高騰を背景に販売単価は大きく上昇したため、わが社2021年度決算は、売上高302億円、経常利益917百万円(速報ベース)となる見通しです。

	単体決算(速報ベース)	連結決算(5社*単純合算)
売上高	302億円	383億円
営業利益	806百万円	1,117百万円
経常利益	917百万円	1,661百万円

* 5社：宮崎精鋼(単体)、東洋精鋼、交邦磨棒鋼センター、宮崎エンジニアリング、Miyazaki Seiko de Mexico (MSM)

■2022年度(2022年6月～2023年5月)計画

今年度より、向こう3年間の新しい中期経営計画(CIF30)がスタートします。

CIF30は“Challenge our Innovative Future 2030”、直訳すると、「2030年に向け、わが社の革新的な未来の実現に挑戦する」、つまり、これから2030年までの大きな時代の変化に対し、社員ひとりひとりが自ら考え、行動することで、わが社の更なる革新と成長に繋げて行こうというものです。

2022年度の計画は、売上高370億円、経常利益8.0億円としています。足元の需要は引き続き半導体や部品不足の影響で低い水準で推移しており、今後の感染症の拡大あるいは収束、今年2月末に発生したロシアのウクライナ侵攻による自動車生産、需要動向への影響、資源高による諸物価の高騰がわが社生産コストに及ぼす影響など、不透明かつ不安な要素が多い状況にありますが、今回CIF30で計画した課題や目標をしっかりと達成すべく、社員一丸となって頑張りましょう。

	全社	磨棒鋼管事業部	線材事業部	スラグ事業部
販売量	176千トン	35千トン	128千トン	13千トン
売上高	370億円	79億円	249億円	42億円
営業利益	1,066百万円	484百万円	400百万円	182百万円
経常利益	802百万円	243百万円	379百万円	180百万円

以上

